

畜産とくつく情報

平成22年11月15日
(通算第128号)
問い合わせ先
長野県庁園芸畜産課
電話 026-235-7233

耕種農家と畜産農家の連携により、飼料用稲・飼料用米を畜産経営に活かしましょう！

県では、飼料自給率の向上や海外に依存した家畜飼料原料からの転換を図るため、水田を活用した飼料用稲や飼料用米の家畜への給与を進めています。

地域内で耕種農家と畜産農家の連携を進めて、飼料用稲・飼料用米の生産と利用に取り組んでみましょう。

1 稲発酵粗飼料（稲WCS）について

(1) 飼料としての特長

- 嗜好性が高い
- 粗蛋白質と総繊維含量はとうもろこしサイレージに、TDN含量はグラスサイレージに近い。
- 機能性成分のビタミンEを多く含み、ストレス軽減や肉の抗酸化作用の向上につながる。



専用収穫機と飼料稲ロール

(2) 稲発酵粗飼料の給与

乳用牛	育成牛	給与量：原物で4kg(体重200kg)～10kg(体重400kg)。 TDNとCPのバランスを適正に調整すること。
	乾乳牛	給与量：原物で6～8kg。 イネ科牧草の半量を稲発酵粗飼料に代替えできる。
	搾乳牛	給与量：原物で4～10kg。 イネ科牧草の一部を代替えでき、給与量の範囲は、泌乳量により幅がある。
肉用牛	育成牛	給与量：1.5～5kg。
	繁殖牛	給与量：7～10kg。 乾牧草との併用給与が望ましい。
	肥育牛	給与量：黒毛和種における全期間給与では、4～6kg。 ビタミンA制御型肥育では、肥育前後6kg以下、後期2kg程度。 交雑種では、黒毛和種より1～2kg多い給与。

2 飼料用米について

(1) 飼料としての特長

- 米の栄養価は、とうもろこしとほぼ同等で、代替えとして利用できる。
- 粳米は、長期保存ができ、配合飼料と同様に扱える。
- 牛・豚は、粳・玄米の状態では消化ができないため、粉碎等が必要となる。
- 鶏は、粳のまま給与が可能。

(2) 飼料用米の給与

乳用牛	10%以下 (多給しすぎるとルーメンアシドーシスの危険性あり)
肉用牛	3%程度 (多給しすぎるとルーメンアシドーシスの危険性あり)
豚	20%以下 (粉碎する必要がある) * うま味成分のひとつであるオレイン酸が増加し、軟脂となり やすいリノール酸が減少することで、おいしい豚肉となる。
採卵鶏	50%以下 (粳でも玄米でも給与可能) * 卵黄色が白くなる傾向があるが、混合割合が10%までなら 通常の飼料とそん色ない。
ブロイラー	50%以下 (粳でも玄米でも給与可能)

(3) 飼料用米の活用事例

- 県内では、肉用牛4戸、養豚で5戸、養鶏で8戸が取り組んでいます。
- 飼料用米の取り組み面積は89haで昨年の3倍に増えました。
- 主な活動事例

畜種	市町村	飼料用米使用量	販売方法
養鶏A	松本市	120トン	飼料用米給与した畜産物として銘柄 化して販売
養豚A	安曇野市	10トン	
養豚B	栄村	20トン	

3 国の主な助成事業 (8月現在)

- 高品質・高収量な稲発酵粗飼料の利活用【10千円/10a以内】
- 稲発酵粗飼料の専用収穫機等のリース方式による導入
- 飼料用米の乾燥施設、貯蔵施設等の整備
- 飼料生産を担うコントラクター等飼料生産組織の経営の高度化に必要な農業機械等のリース導入支援

(注) 8月に公表された概算要求のため、今後変更されることがあります。

事業ごとに採択要件があることを御承知おきください。

詳細は、農林水産省ホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/budget/index.html>

ご相談は、地方事務所・農業改良普及センター・県庁園芸畜産課 (電話026-235-7233) へ問い合わせください。